

証したいんです」

「おもろいこと考えたやないか、何年も栽培課が試験に使わずに管理だけやって遊んでる畑あるから、今日から好きに使えや、ワシはこれから栽培課長に言いに行ってくる」、さすが柔軟派。

「話きいてたけどさ、そんなことしたら栽培に手を取られるし、科学的なデータとれないから論文にならないじゃないの？」ってやる前からごちゃごちゃ言うな、こうあらねばのおじさん。

【差】が証明 ハダニの無罪

で、いろんなことわかった。ホウレンソウではバラマキ播種・間引き収穫方式で被害が出やすく、播種機による計画的条播種・一斉収穫方式では被害なしという栽培方式上の【差】。

アスパラガスでは茎枯れ病対策のために株元をバーナーで火炎処理するんだけど、畝肩のポリマルチ片づけてから焼くか片づける前に焼くかだけの作業順の【差】。

先に焼くとマルチ焦がさないようバーナー使うから、茎

枯れ病のついでに焼かれてたハダニが炎を免れて大量に生き残る。

ナシやナスは防除器具の噴霧口の選び方と散布動作の上手、下手の差。

ハダニは無実、みんな人災ってことわかつちゃった。

さらにもっとすごいと思っただのは柔軟派は間違い認めし反省するからあつと言う間に被害とめる。

おじさんは、そんなことで被害が止まるとは思えん、もっとちゃんとした研究やれ・・・とか言ってる自分は変わろうとしない。

それから40年、ずっと飽きもせず【差】から問題の本質を見てきたってわけ。

【差】、イノシシも無罪

どうしても【差】をみる習慣ついている。

だから、被害も【差】でみたら見えてきたのよね。

イノシシは無罪、被害とは餌付けの結果。

警戒なしに近づける、柵の外からでも食べる、守りたい餌以外は平気で食わせてる、作物ない時は自由に通らせ

る・・・みたいな餌付けしてるからイノシシも住む。

柔軟派は被害の本質が餌付けって納得したら、アツそうだったのか、じゃあできるだけみんな餌付けやめようってさっそく始める。

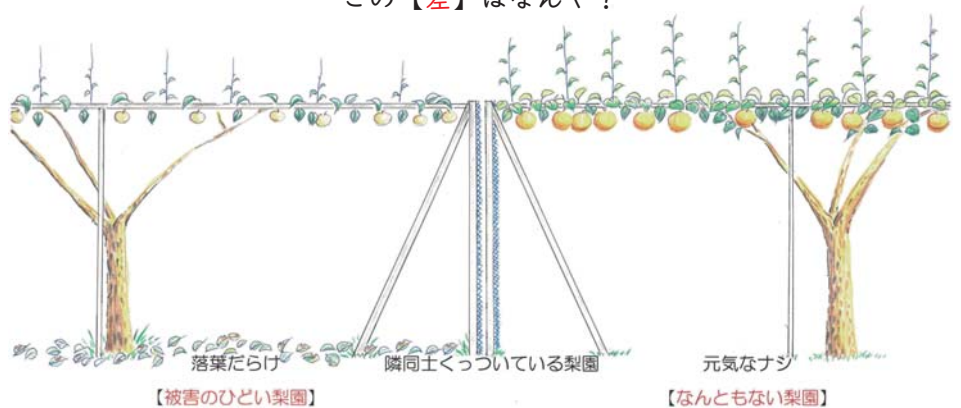
おじさんが牛耳ってる集落はすぐに主^{おも}？だったもので〇〇地区有害鳥獣対策協議会なんか作って、家庭菜園だけのばあちゃん、自家消費米しか作ってないじいちゃん、平気でカヤの外に締め出したり補助金で行政にやらせようとする。

これが集落間の【差】。柔軟派の集落は女性も高齢者も置き去りにしない。だから、女性大切に作る曲集落は応援したいんだな。



新人時代の雅ねえ

この【差】はなんや？



次回はリクエストがあったからもう一度、カラスの話するね！



講師紹介 いのうえ まさてる 井上 雅央 氏

1949年、奈良県出身。愛媛大学大学院農学研究科修士課程修了、京都大学博士(農学)。元農研機構 近畿中国四国農業研究センター 鳥獣害研究チーム長。退職後、同センター専門員。宮崎県、熊本県、広島県、静岡県などでアドバイザーとして継続的に活動。著書に、『これならできる獣害対策』『山の畑をサルから守る』『山と田畑をシカから守る』『60歳からの防除作業便利帳』『ハダニ』『女性がいればずんずん進む獣害対策』(いずれも農文協)など多数。

